

田辺かずき

市政報告

オール古賀を実践！
まちづくり推進中！

県市通算第60号
(市政第6号)

2021年3月発行

<田辺かずき事務所>
〒811-3103 福岡県古賀市
中央 1-6-41-203
TEL : 092-692-8510
FAX : 092-410-7730
メール : challenge@
tanabe-kazuki.jp

【裏面もあります！】
■古賀駅周辺の活性化
■デジタル化を推進中

ピエトロ、古賀に新工場立地で協定締結

立地協定締結式



ピエトロと立地協定を締結し、高橋泰行社長と協定書に署名=2021年3月12日

古賀市は、ドレッシングや pasta ソースなどの製造・販売や レストランを展開する「ピエトロ」さまの新たな工場の建設に向けて立地協定を締結しました。建設予定地は、青柳の古賀グリーンパーク（GP）の直近。ブランド力の大きいピエトロさまの新規立地によって古賀市の産業力が強化され、まちづくり

古賀グリーンパーク直近に「コト消費」でにぎわい創出

の大きな転機となります。今回の立地協定を契機として、古賀市として市内外からの人の交流をさらに促進し、にぎわい創出につなげていきます。

3月12日、ピエトロの高橋泰行社長と私が協定書に署名。古賀市としてピエトロの事業活動を支援するとともに、古賀GPとその周辺における「観光・物産・情報発信の拠点」形成に向けて相互に協力していきます。記者会見では、高橋社長から、工場はレストランや物販の機能、工場見学も視野に入れて検討したいとの考えが示されました。私からも、体験を楽しむ経済活動「コト消費」を促し、にぎわいを創出する観点からとても心強いと申し上げました。

青柳地域の古賀GPとその周辺は、古賀市のまちづくりで極めて重要なエリアと位置付けています。農産物直売所「コスモス広場」や自然の中で憩える「ふるさとの森」、多目的広場や健康文化施設「クロスパルコが」といったスポーツ施設があり、今も市内外の人々が訪れます。古賀市として「人の交流」によるにぎわいをさらに創り出していくため、私の市長就任後の2019年8月、古賀GP周辺への「民間活力の導入」をめざす方針を決定。庁内に観光・物産・情報発信の拠点形成プロジェクトチームを立ち上げ、「コト消費」の視点も含めて、企業誘致などの取組を推進してきました。私自身もトップセールスとして高橋社長とお話をさせていただいてきました。

さらに、古賀駅東口開発や西口の本質的再生をめざすプロジェクトとも連携させます。中心市街地、古賀GPの青柳地域、さらには薬王寺温泉のある小野地域を結ぶ「コンパクト・プラ

ス・ネットワーク」の考え方を基礎として、古賀市全体の活性化につなげていきます。その意味でも、今回の新規立地は重要な転機となります。

企業誘致などによる産業力の強化は私の公約であり、市政運営の最重要テーマのひとつです。経済の活性化は移住定住の促進にもつながり、都市の持続可能性を高めます。今後も魅力あるまちづくりを推進していきますので、よろしくお願いたします。

チルドレンファーストで子育て世代を支援

子育てを応援する「HUGっこフェス」が3月8日に古賀グリーンパークで開催されました。青空のもと、子どもたちも、お父さんお母さんたちも、それぞれ楽しみ、語らい、温かい時間になりました。私も同世代の皆さんからご意見をいただくことができました。

こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます



紙ベースの報告書ではまちづくりのすべてを伝えることはできません。私のFacebookやTwitter、インスタグラム、LINEといったSNS、ブログ、古賀市HPなどでは、連日、様々な市政の動きを発信していますので、これらをフォローし、チェックしていただくと幸いです。こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます。

乳幼児と保護者の皆さんの居場所を開き続けるなど、新型コロナ対策でも独自の対応を講じてきました。今後もさらに充実を図っていきます。



古賀駅周辺の活性化策を展開中、デジタル化も推進!

古賀駅周辺の にぎわい創出へ

市政運営の「1丁目1番地」に位置付けるJR古賀駅周辺の活性化。長年の懸案だった中心市街地のにぎわい創出をめざし、2019年11月に最大地権者のニビシ醤油さまと古賀駅東口エリアの開発に向けた協力協定を締結しました。現在、具体化に向けて取組を進めており、市内外の関心も高まっています。東口から「リーパスプラザこが」をつなぐ回遊性ある歩行空間や、駅へのアクセス性を向上させる道路、特に子育て世代を意識した住環境の整備、「商」機能の付与、観光・物産・情報発信の拠点形成などを強く意識しています。今後これを基礎に整備方針を策定し、2021、22年度の都市計画決定をめざしています。

同時に、古賀駅西口活性化にも着手。2020年度から3年間かけてエリアマネジメ

ントの事業を実施しています。宮崎県日南市の油津商店街を再生させた実績のある木藤亮太氏らの力を得ながら「本質的な再生」に向けて、今後、活性化に向けたビジョンを作成し、まちづくり団体を立ち上げ、実践していきます。皆さんのご協力よろしくお願いたします。

保育のICT化を 推進中

チルドレンファーストの観点から、市立鹿部保育所は2020年度からICTサービース「キッズリー」を導入。まずは防災対応などの緊急連絡や日々のお便りの一斉配信、降園管理から活用を始めました。ICT化によって先生方が子どもと向き合う時間を一層確保し、保護者の皆さんとのコミュニケーションの効率化・円滑化・深化をめざします。今後は登園管理や子どもたちの活動の様子を写真で配信す

チルドレンファーストのまちづくり
～保育現場を充実させるICT化への取り組み～

古賀市子育て環境を改善する取組
～様々な子育て施設に～
チルドレンファースト

ICT導入ポイント

- 「おはね」(24時間)
- 「徐く」(24時間)
- 今後のまちづくりの展望
知能を高めるための
- 保健師 専門職
- 産前産後ケアサポート
- チルドレンファーストのまちづくり
- 長年におよび
見守り
- まちづくりの
推進を支援

ICT化による行政の効率化
再検証!!

RPA BPR ICT 便利に

ICTサービス(キッズリー)導入で

具体的
女性性支援

ICT不足が課題

待機児童0!!

保育不足が課題

保育現場の
再検証!!

ICTによる行政の効率化
再検証!!

最新の抗原検査キットを導入へ 新型コロナ対策、古賀市独自に

古賀市はクラスター発生の抑止と福祉事業者等の事業継続支援の観点から、新たに開発された高精度の抗原検査キットを市独自に備蓄し、市内の保育所・幼稚園や小中学校、高齢者施設、障がい者施設などで新型コロナウイルスの陽性者が確認された場合、当該施設に検査キットを無料で配布し、無症状の職員の方々が速やかに検査できる体制を整えることを決めました。なお、検査キットは今年1月に厚生労働省の医薬品承認を受けたものです。

田辺一城(たなべ・かずき)

1980(昭和55)年5月16日生まれ。暁の星幼稚園、花鶴小学校、古賀中学校、福岡高校、慶應義塾大学法学部法律学科卒。2003年、毎日新聞に入社し、福井支局、大阪本社社会部。2011年から福岡県議会議員を2期務め、2018年12月に古賀市長に就任。妻と中学2年の長男、小学4年の長女。好きな音楽家はサザンオールスターズと椎名林檎、作家は夏目漱石と平野啓一郎、漫画家は手塚治虫。



JR古賀駅周辺開発や薬王寺温泉における新ビジネス創出、企業誘致など様々な取組が具体的に動き出したことを受け、経済誌の「ふくおか経済」(上)と「I・Bまちづくり」(下)から立て続けに取材を受け、それぞれ2月号にインタビューが掲載されました。

電子図書館がスタート

電子図書館が3月9日から始まりました。インターネットを通して、パソコンやスマートフォンを使って電子書籍を借りて読むことができます。文字の拡大機能や読み上げ機能を利用でき、障がいのある方や高齢の方も利用しやすいとなります。感染拡大防止の効果も期待されます。24時間ご利用可能。

児童生徒に1人1台 PC端末を配備

ID・パスワードの申請手続きが必要ですよ。

デジタル格差の解消

古賀市はICT教育の充実を図っており、全ての小中学校の児童・生徒に1人1台のパソコン端末を配備し、全ての普通教室に大型モニターを設置しました。機器を有効に活用するために必要な無線LANも昨年12月に全ての校舎への設置が完了。早速、現場の先生方が研修を行ったうえで活用してくれています。子どもたちの学びと育ちにしっかりとつなげていきます。

デジタル化を推進するうえで重要なのが、デジタル格差の解消。今後、高齢者の皆さんのスマートフォンなどICT機器の利用を後押しするための支援策を講じていきます。特に、近年は災害がいつどこで起きるか分からず、発生時は防災行政無線だけでは限界があり、インターネットは迅速な情報共有を図るうえで極めて有効です。そのためにもまずは一歩踏み出し、機器を使ってみるのが大切です。よろしくお願いたします。